公益財団法人愛知教育文化振興会

教育と文化

No.140
令和8年3月



村松乙彦 画

Contents

P2 三つの「邂逅＝巡り会い」から教師道を提言
巻頭言 「『邂逅（かいこう）』～巡り会い、勉める道」～
愛知教育文化振興会副理事長 夏目貴司

P4 日本画の枠にとらわれない色彩表現の追求【QRコード付】
三河の文化を訪ねて「日本画家 村松乙彦」 津具小（北設楽）

P6 学校給食に願いを込めて
随想「学校給食から学んだ食育とは」 元栄養教諭 鳥居弘巳

P7 本物を育てる基盤「みそあじ」とは
教室の窓辺「子どもたちの姿から学ぶこと」 東中（碧南）

P8 最優秀・優秀論文と２点の教育図書を紹介
優秀論文入賞者・教育図書出版助成の紹介

P10 作品展の様子等を動画でも紹介【QRコード付】
かきぞめ・みかわ彩発見絵画コンクール

P14 三河各地の特色ある教育活動を紹介【QRコード付】
協働的に探究する生徒
～未来を切り拓く力を育む「朝中型探究学習」～
朝日丘中（豊田）

P15 助成対象59団体から２団体を紹介
学校教育ボランティアグループの活動紹介
八ツ面小（西尾）・蒲郡中（蒲郡）

P16 「学級活動アイデア集（中学校用）」の紹介と各種締切
文振からのお知らせ

巻頭言

『邂逅（かいこう）』～巡り会い、勉める道



公益財団法人愛知教育文化振興会　副理事長　夏目　貴司

本年度、微力ながら三河教育研究会の会長を拝命するとともに、公益財団法人愛知教育文化振興会の副理事長を仰せつかっています。その立場から、私自身の「邂逅（巡り会い）」に照らしつつ、所感を綴らせていただきます。

本年度の三河教育研究会は、「この子のため『勉める』」をテーマに活動をしています。このテーマには、いくつになっても、どんな立場にあっても、教師には学び続けてほしいという願いが込められています。また、目の前の「この子」と向き合う姿勢、それこそが教育の原点になるというメッセージも込められています。

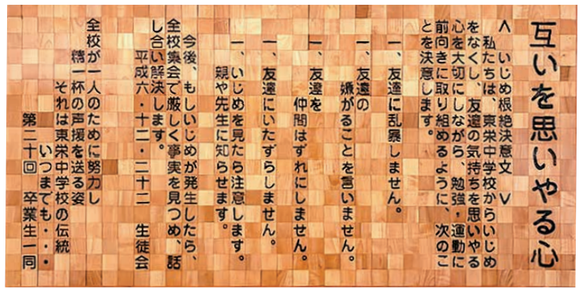
私ごとになりますが、20代から30代にかけ、学びの多い勤務ができた東栄町立東栄中学校に、ありがたい縁をもって50代の半ばから再び勤めることができています。勤務する中で、多くの「この子」たちとの邂逅がありました。時に多感な中学生の「理想を追求する姿」に学び、時に鍛錬期の中学生の「躍動感あふれる姿」に感動し、さらには「大いに挑戦する姿」も見届けることができました。

三河の片隅で巡り会えた学校文化や学校力が今も息づくことの感激を、三つの教育活動を軸に振り返り、今後の三河教育に願いをかけたいと思います。

理想を追求する姿
「六項目」から「ＡＳＫＩＴ」へ、そして

「先輩にされて嫌だったことは後輩にしない」「先輩にしてもらってうれしかったことを後輩にしてあげたい」このように意識の高い東中（東栄中）の3年生と着任した初年度に出会いました。

彼らは、それまでの学校生活を振り返る集会を大切にし、後期には、学年発議によって「いじめ根絶決意文」を成立させました。並行して、東中生の生活の指針となる「六項目」が定まり、生徒会活動が心豊かな仲間の集う学び舎を育んでくれました。その後、「六項目」の思いは受け継がれ、さらに、仲間の声を聴きながら、誰もが口ずさみやすいスローガン、「ＡＳＫＩＴ（アスキット）」へと練り上げられました。そこには「明日はきっと、もっとよくなる」という、東中生の強い願いが込められています。私たち教師は、その局面ごとに生徒の声に耳を傾け、信頼し、自主的な取組を尊重してきました。



いじめ根絶決意文（平成6年度の卒業記念品）

A・朝一番　明るいあいさつ　あなたから
S・進んで清掃　すみまで　スッキリ
K・強力な　君の応援で　きっと勝つ
I・いつだって　意見の言える　いい授業
T・とおる声　友と響かす　東中合唱

現在、その形は変わっていても、日々の学校生活の基盤を大切にし、よりよい学校を仲間とともに創り上げようとする風土は変わっていません。2年生の国内研修にて、国会議事堂での学びに触発された生徒会長が、「校長先生にお願いがあります。」と、学校生活改革の新たなアイデアを直言してくれたことも、理想を追求する東中文化だと思います。

私たち教師は、どんな時も、子どもたちの声に耳を傾け、確かに「聴き取る」姿勢、子どもたちを信頼する姿勢、そんな真摯な構えをもって、「この子」に向き合うべきであると思います。

躍動感あふれる姿
「全校駅伝部」の大きな力

「ＡＳＫＩＴ」第三条にあるように、本校では「応援の力」も大切にしてきました。平成序盤に生み出された、「いけいけ東中！」のかけ声は仲間を励まし続け、現在でも校内に響いています。

仲間と励まし合うよき風土が高まってきたカギは、「全校駅伝部」の存在です。夏の大会終了後に、全ての球技部活動を閉じて編制される同部には、走ることが得意な子だけでなく、本当に苦手な子まで含め、全校生徒が参加をしました。私たち教師も、それぞれに育てるメンバーを預かり、練習方法だけでなく、健康・安全管理にも気を配って寄り添い、記録の分析や駅伝ノートの交換（添え書き）に努めたものでした。

全校が、同じトラックで汗を流し、それぞれが目標をもち取り組むからこそ、同じ気持ちで、励まし合い、心から応援し合うことができるのです。伸び悩む選手の数秒を縮める努力を知る仲間だからこそ、トップ選手たちも他の頑張りを認めつつ、自らを高める努力を怠らない。そんな、熱く、時に泥臭い、躍動感ある東中生の姿は、共にグラウンドにある私たちに感動を与え続け、現在も涙を流させてくれます。

私たち教師は、世代や立場によって担う役割は違えども「師弟同行」を胸に、共に教育現場に立ちたい。柔らかく「見つめる」眼差しを常にもち、「この子」に向き合うべきであると思います。

大いに挑戦する姿
「海外研修」への挑戦から

当初は代表生徒数人の選抜だった東栄町によるカナダへの海外研修事業が、3年生全員を対象とすることになった初年度から、その挑戦を見つめてきました。



3年生全員参加の海外研修

ホームステイや学校交流という課題に試行錯誤しながら向かう中、一貫していたのは「ふるさと東栄を見つめてみよう」という子どもたちへの願いであり、我が町のよさは何か、何を伝えられるのかを真剣に考えました。カナダの地で自分たちの「誇り」や「自信」を伝えられたならば、子どもたちの大きな成長につながると信じての取組でした。

英語が苦手な子どもや、交流校の多くの人々とのふれ合いに臆する子どももいました。しかし、そんな殻を破る大きなきっかけとなったのが、ふるさと東栄の誇る「花祭り」を主題にした交流会での発表でした。自分たちが慣れ親しんできた伝統文化について、自信をもって語り、堂々と舞い、美しい所作で披露できたことは、言葉を超え、気持ちの伝わる大きな転機となりました。会場に感動と親しみの空気が広がった光景は、今なお語り継がれています。

私たち教師は、新たな挑戦者の思いに寄り添い、共に挑み、「感じ取る」ことのできる伴走者。そんな覚悟で、「この子」に向き合うべきであると思います。

三河の教育文化の向上発展に寄与し続けてきた愛知教育文化振興会の取組は、過去、現在、そして未来にあっても、各地に光を照らし、勇気づけてくれます。各校が、「文化」を育み、「学校力」を高めようとするとき、本法人によって提供される教育環境を基盤に、「この子」に向き合う営みがなされることに大きな期待を抱いています。

私たち教師は、確かに「聴き取る」姿勢と、柔らかく「見つめる」眼差しをもち、さらに、共に挑み「感じ取る」覚悟をもって子どもたちに寄り添いたいと思います。「勉める」べきこの道の、一歩一歩を大切に、着実に歩んでいきましょう。



日本画の枠にとらわれない豊かな色彩表現
日本画家　村松乙彦（おとひこ）

設楽町立津具小学校長　伊藤昭康


津具村偉人の像（設楽町津具総合支所）

津具の七賢人　村松乙彦

設楽町津具総合支所には、かつて「津具村」であった頃の「津具村偉人の像」があります。津具の七賢人とも称され、その偉業が後世にまで称えられています。ここでは、今もその作品を鑑賞することができる日本画家の村松乙彦を紹介します。

村松乙彦は、大正元年、津具村で生まれました。大正14年、下津具尋常高等小学校尋常科を卒業し、静岡県立浜松第一中学校（現在の浜松北高等学校）へ進み、昭和3年、法政大学文学部仏文科予科に入学。併せて夜間に太平洋絵画研究所にて油絵を学び始めました。この時、油絵の色彩の美しさに魅力を感じ、油彩画家を目指してフランス行きを夢見ていたようです。ところが、ある時、田原市出身の渡辺崋山の絵画展を見て大いに感動し、日本画への転向を決意しました。その決意は固く、大学を中退し、日本美術学校日本画科に入学したのです。

昭和10年、同校を卒業すると、河合玉堂（ぎょくどう）の門下である児玉希望（きぼう）に師事し、日本画家への道を歩み始めます。昭和16年、『珊瑚礁の渚』が、第4回文展にて初入選し、画壇において注目されましたが、第二次世界大戦中の昭和17年から18年にかけて、海軍報道班員としてフィリピン、ボルネオ、セレベスといった戦地に同行し、従軍画家として戦争美術の制作を強いられました。

一方で乙彦は、日本画家としてのアイデンティティもち続けていました。戦争美術関係の展覧会では、昭和18年の第2回大東亜戦争美術展に出品しています。また、昭和16年の第5回海洋美術展から昭和19年の第8回まで、毎年作品を出していました。

戦後、再び画家として活動を始めた乙彦は、昭和21年に開催された第2回日展より作品を出品し始めます。昭和24年第5回日展では『浮嶋（うきしま）の朝』が、昭和26年第7回日展では『快晴』が特選を受賞し、その実力が高く評価されました。翌年には無鑑査で出品できるようになり、昭和28年からは依嘱出品となりました。

さらに、昭和33年の第1回新日展で委員、昭和35年に審査員を務め、昭和37年には日展会員となります。この後、たびたび審査員を務めましたが、昭和41年より評議員となり、『月の庭』（昭和44年改組第1回日展）、『しれとこ』（昭和48年第5回日展）等を発表しました。日展における活躍のほかにも、昭和33年に一年間の渡欧の後、日本美術家連盟監事・国際美術協議会委員を務めています。

その後、昭和58年に腹膜炎を患い、東京において71年間の生涯を閉じました。

作風の転換～豊かな色彩表現へ

創作の初期から中期は、風景を背景に置いた人物画や静物画を手がけていました。また、海洋画家としても知られており、海をモチーフとした風景画も多く残されています。いずれも、パステル調の穏健な色合いで、注目作品である『珊瑚礁の渚』も、セピアカラーのやわらかな雰囲気の画風でした。

ところが、晩年になるにつれて、色彩表現がより鮮やかになり、対象を単なる写実で描くのではなく、内面的な感情や精神性を表現する方向に進化しました。これは、彼の画業全体を貫く自然への深い洞察と、精神的な探求が結実した結果と言われていますが、昭和36年の渡欧が、彼の色彩感覚に大きな影響を与えたと考えられます。ヨーロッパの光や色彩、そして西洋美術がもつ独自の表現方法にふれたことで、従来の日本画の枠を超えた新しい表現を追求するきっかけになったのかもしれません。また、印象派やフォービズムなど、色彩を重視する画家たちの影響も考えられます。昭和47年に発表された『オモロ』は、そうした変化が結実した作品といえるでしょう。


岩石から作り出した顔料


『オモロ』（昭和47年）

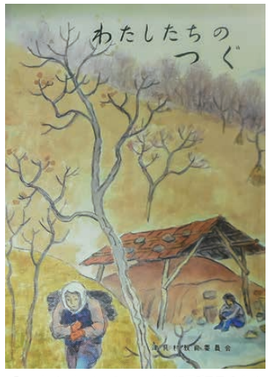

『珊瑚礁の渚』（昭和16年）

また、伝統的な日本画の顔料に加え、新しい顔料や画材も試行錯誤しながら取り入れ、彼独自の色彩を作り出します。これにより、自然界で感じる微妙な色の変化を、より忠実に、あるいはより強調して表現できるようになりました。

文化・ふるさとへの思い

乙彦は、画家としてのキャリアを重ねる一方で、他の文化領域にも関心をもち、関わっていきました。後に国の重要文化財に指定された大森貝塚の保存会では副会長を務め、その文化的意義の啓発と保存に努めています。

また、ふるさと津具に対する愛着は、画家として活躍する中でももち続けていました。昭和26年の旧下津具小学校講堂の落成式では、雲間にそびえる富士山の絵画（本誌表紙に掲載）を寄贈しました。この作品は、現在も津具小学校の校長室に飾られています。また、当時の津具村教育委員会が発刊した小学生向けの社会科副読本「わたしたちのつぐ」においては、表紙画を含めいくつかの挿絵を提供したり、津具村学校沿革誌に小学生時代の回顧録を残したりしています。



『わたしたちのつぐ』（昭和56年）

鑑賞のすすめ

村松乙彦の作品は、現在、愛知県美術館や東京にある現代日本画専門の山種（やまたね）美術館、設楽町津具文化資料展示センターに所蔵されています。

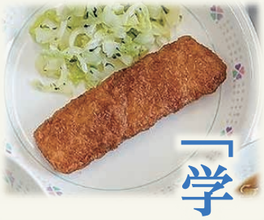
特に、津具文化資料展示センターには、ここで紹介した『オモロ』をはじめ、絵画や原画といった作品群、スケッチや画材、評論などの貴重な資料もあわせて展示されています。ただし、お越しの際は、「道の駅したら」に併設されている奥三河郷土館（電話０５３６・６２・１４４０）にご連絡いただき、予約のうえ鑑賞してください。お待ちしています。

奥三河郷土館



津具文化
資料展示センター





「学校給食」から学んだ食育とは

元 学校栄養職員・栄養教諭　鳥居　弘巳



学校給食の歴史

「学校給食」と聞いて、どんなことを思い出しますか。私は、小学校2年生の時に校内の給食室が焼失し、1年余り弁当を持参したことを思い出します。当時は、作ってくれた母の苦労に気づくことなく、弁当箱の蓋で中身を隠しながら無言で食べたことを思い出します。給食が再開された時、皆と同じ食事が食べられる幸せを痛感しました。

現在の学校給食は、終戦直後の食糧難で子どもの体位が著しく低下したことに端を発します。状況を知ったGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)は、学校給食の再開を指示し、支援物資の無償提供を提案しました。日本政府は、戦前より子どもの体位と食事内容の関係を研究していた東北大学の意見を重視し、体位向上に効果的な脱脂粉乳を要望しました。脱脂粉乳は、多くの支援団体から届いた救援物資と共に全国に支給され、パン・ミルク・おかずという現在に繋がる学校給食の基礎が作られたのです。そして、昭和29年6月、学校給食法が公布され、それまで各自治体任せだった給食は、「教育の一環」として統一されました。

学校栄養職員として

昭和50年4月、私は県費負担学校栄養職員一期生として採用され、幸田町立幸田小学校の配属となりました。当時の幸田町の給食は、学校ごとに調理する自校方式でしたが、専属の栄養士はおらず、他市から譲り受けた献立表を使って実施されていました。栄養職員の採用により他市からの資料提供は無くなり、過去の資料だけが頼りのスタートです。給食が始まり私が最初に目にしたのは、清掃時間になっても教室の片隅で食べている子や、「残してごめんなさい。」と自らの食器を配膳室まで片付けにくる子どもの姿でした。その子らにとっての給食時間は、私が弁当持参で感じたように苦痛でしかなかったのかもしれません。この姿から、多くの子どもたちが「食べたい。」と思える給食作りが私の課題になりました。

この課題の解決は、限られた予算や設備、調理能力等の制約の中で、家庭環境や地域性にも関与しなければならない難題でした。調理可能な献立は

令和7年度
「個人研究助成」
～審査を終えて～

令和4年度から3年間、着実に研究を推進された9名の先生方の論文審査が行われました。どの論文も3年間の成果が見事にまとめられていました。ここでは、夏目貴司審査委員長の講評とともに、優秀と選出された3名の先生方を紹介します。

講評

どの実践にも、その根底に三河教育の伝統である「はじめに子どもありき」の姿勢が感じられ、目の前の「この子」にかける願いが明確な論文にまとめ上げられていました。実践者の、若さや勢いはもとより、新たな視点で挑む思いや、緻密に考察しようとする熱量に、大いに読みごたえを感じました。そこには、まさに「熱き」教師の姿が見られました。また、教科・領域の指導を超えた「人としての生き方」、「仲間、個のあり方」を子どもに考えさせ得る実践もあり、「この子」に一生ものの力をつけたいという教師の願いを感じることもできました。

審査にあたっては、実践経験が豊富な委員によって、慎重な協議が進められ、3年次研究を積み上げた3名の優秀者が選出されました。以下、本審査において多くの称賛が寄せられた秀逸な点、また、指摘のあった課題等を列記します。今後の参考にしていただければ幸いです。

・1、2年次の成果と課題を明確にした上で、3年次研究に取り組まれており、研究の確かな継続性と深まりを感じた。

・全体的に、子どもの主体性を発揮させようとする姿勢が伝わってきた。そのための工夫、手だてに独自性があり、実践者が意欲的に取り組んでいる様子がよくわかった。身近で魅力的なひと・もの・ことをくり返しかかわることのできる場、ICTの効果的な活用などについて、詳述が見られた。

・協働的な学びについて、その分析のあり方に弱さを感じた。ふり返りノートの記述だけでなく、授業場面で子どもの姿もとらえられるようにしたい。特に話し合いで学びを深める場面では、何をどう分析するかという視点を明らかにしておきたい。

・子どもの発言や記述を根拠に手だての有効性を論じているが、事実と有効性とのつながりを、より詳細に論じ切りたいと思うものがあった。説得力のある記述という視点で読み直しをするとよい。

・3年間の継続研究という視点で読んだ時、各年次の課題があいまいであることや、3年間の成果と課題、それらのまとめが少なく、内容が薄いと感じるものがあった。研究が深まっていく様子の記述により力を入れるなど、執筆の工夫をするとよい。

◇研究成果論文審査結果◇



最優秀賞
蒲郡市立三谷東小学校
小泉　辰十
自ら追究し続ける子の育成―かかわり合いを大切にした授業づくり―
［総合的な学習］

子どもたちと共に学んだ3年間。地域や先生方の支えに感謝し、今後も学び続けたいです。



優秀賞
蒲郡市立塩津中学校
石原　佳奈
自ら追究し、学びを実感する生徒を育てる数学学習［数学］

生徒たちと追究し続けた貴重な3年間でした。先生方や地域の皆様とのかかわりに感謝しています。



優秀賞
岡崎市立竜美丘小学校
鈴木　幸太
自分たちでつくる道徳の授業［道徳］

この研究が何かの役に立てば幸いです。携わってくださった全ての方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

令和7年度
教育図書出版助成

本法人では、教育文化の振興と子どもたちの健やかな成長を願い、教育図書の出版に対して助成するとともに、その内容を広報しています。

この助成は、三河の小中学校教員及び、教員であった個人またはグループが、学校・家庭・地域に関わる教育活動や研究をまとめた図書で、経費の多くを公費等の援助を受けずに出版したものを対象としています。

本年度は、審査会において2点の助成が決定されました。なお、令和8年度の応募要項は、4月中旬から本法人のホームページに掲載します。

我が陣営にあるべし
～水野忠重による水野家の復興～

著者　林口　宏（幻冬舎）
新書判　198頁　980円

本書は、戦国時代末期に松平家へ水野家が仕えるようになったいきさつを近年解読された「片山家文書」から明らかにする歴史研究書である。『我が陣営にあるべし』という書名は、今川家の支配から自立した家康（21歳）が、刈谷城主の兄・水野信元の配下を飛び出し、三河鷲塚村で浪人となっていた弟・忠重ら水野家の武将にかけた言葉である。

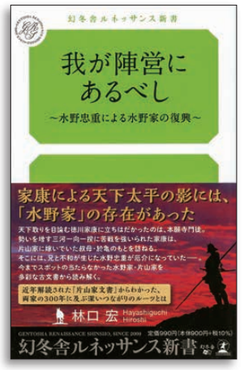
永禄3年（1560）の桶狭間合戦では、松平家は今川方、水野家は織田方で戦った。この合戦で、あろうことか水野信元は敵方の大高城の家康に、今川義元の討死を伝え、城からの撤収を勧めたのである。ところが信長は、合戦後すぐに信元に対し家康討伐を厳命した。家康は、岡崎城に戻るや織田勢の攻撃に備え、信長方の挙母城・梅坪城・沓掛城を攻撃した。さらに刈谷城に迫り十八町畷で水野信元と合戦となった。激戦で家康勢は杉浦勝重、村越平三郎が討死し、大久保忠勝、大久保忠豊、大久保忠世、太田吉勝らは首級を得た。水野勢は追い立てられ、遂に刈谷城に逃げ込んだ。家康勢は討取った47の首級を十八町畷に吊るして並べ、この戦果をさらした。水野家中で犠牲者が増加する中で城主の兄・信元に弟・忠重は不満をもった。そして同族の水野太郎作らと刈谷城を去ったのである。忠重、太郎作らが身を寄せたのは碧海郡鷲塚村の片山家であった。同家には忠重の姉・於亀が嫁いでいた。家康の母・於大や信元、忠重、於亀らは、みな水野忠政の子どもという関係であった。

織田信長が家康討伐から和睦・同盟へと方針転換をしたのはこの時期であった。信長は、家康の伯父・水野信元に家康との和睦交渉を命じた。こうして信長と家康の和睦は清洲城で結ばれた。この同盟は、戦国時代終焉への転換点となるできごとであった。

同盟締結後、家康は三河国内の本願寺勢力を抑え込む準備を開始した。真宗門徒は、寺領への課税を認めていなかったからである。

永禄6年（1563）秋、家康は本願寺教団との戦端を開いた。ところが一旦戦端を開くと家康の予想をはるかに超える状況になった。僧侶・尼女、そして家康家臣からも続々と寺院側につく門徒武士が現れたのである。門徒らは死に臆することなく女、子どもまでもが家康の敵となっていった。

家康は叔母の於亀を頼り鷲塚村・片山家を訪れ、忠重、太郎作ら水野家の武将に加勢を求めた。「片山家文書」には「これ、水野家の徳川家への御奉公の始めなり」と記されている。三河一向一揆では、忠重、太郎作ら水野家の武将が大活躍をした。



躍　動
―志をもって歩み続ける子ども―

著者　愛知教育大学附属岡崎中学校
B5判　135頁　2000円

愛知教育大学附属岡崎中学校が、令和3年度から令和7年度までに取り組んできた教育研究の成果と、本校の子どもの姿を書籍にまとめて発刊いたしました。

「躍動」とは、中学校を卒業した先の未来で、「自分と周りの人々の豊かで幸せな人生と、社会の持続的な発展のために、既成概念にとらわれず果敢に挑戦する」ことを意味します。これは、子どもが中学時代はもちろん、将来においても幸せであってほしいという、私たち教師の、普遍の願いを具体化したものです。

本研究では、問題解決的学習過程を土台とした単元づくり、子どもの個人追究、仲間との意見交流を用いており、これは学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学び」を実現する方法でもあります。そして、学びを深め、学びを行動につなげるための手だてとして、子どもに「自己考察」と「他者考察」を促します。

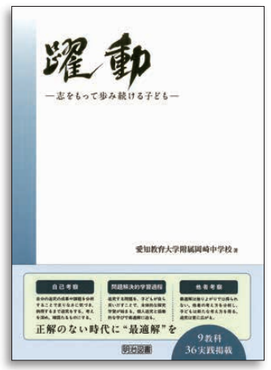
「自己考察」とは、自分の追究の成果や課題を分析し、納得できるまで追究することを支援するものです。「他者考察」とは、他者の考え方を分析し、新たな考え方を得ることをめざしたものです。子どもが自己考察と他者考察を繰り返し、問題に対する最適解を導き出して学びを行動につなげる経験を、全教科・3年間で積み重ねます。そうして、将来においても自分がなすべきことを追究し、挑戦する姿勢や力を育てます。

本書では、この教育理論をもとにして、各教科で将来「躍動」する姿と中学校段階でめざす姿を設定し、自己考察と他者考察の手だてを具体的に示しています。また、全教科合計36の実践例も紹介しています。

例えば、社会科では鳴門のうずしおを、数学科では回転する型紙が枠を通り抜ける動画を、音楽科では民族楽器アサラトを教材とし、子どもが自己考察と他者考察を繰り返して最適解を導き出します。そして、鳴門市のかたがたとともに今後の観光のあり方を考えたり、教育番組の動画制作者に枠の形を数学的に求める方法を提案したり、他学年との演奏を通して音楽の価値を伝えたりします。これらの学習で育まれた本質を捉える力、他者や社会とつながる姿勢は、今後の人生を豊かにするはずです。

本書では、研究のもう一つの柱である、子どもが教科の枠を超え、自分でテーマを設定して3年間追究するLifeworkという実践を紹介しています。追究を深める子どもの魅力的な姿は、各学校の探究学習の参考になるものと思います。

本校の研究が、教育に携わる皆様のお力添えとなることを願っています。本書をお求めの際は、本校ウェブサイトよりご注文ください。



令和7年度 かきぞめコンクール

「かきぞめ手本」を題材にした第15回かきぞめコンクールを実施したところ、三河地区から小学生の部2096点、中学生の部436点、計2532点の応募がありました。

書家・「かきぞめ手本」編集委員の先生方が厳正に審査し、各学年最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作7点、奨励賞20点が選ばれました。入賞者一覧をHPに掲載していますので、ぜひご覧ください。

入賞者一覧へ

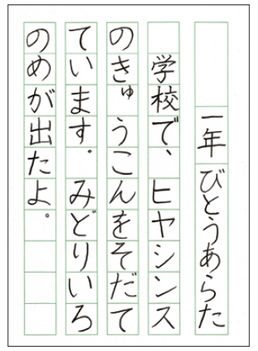


審査の様子

最優秀作品の紹介

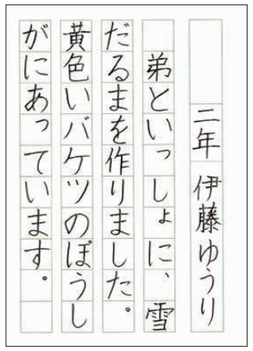
本年度のかきぞめコンクールで、最優秀賞を受賞された9名の皆さんの作品を紹介します。

〔小学生の部〕



一年 びとうあらた
学校で、ヒヤシンスのきゅうこんをそだてています。みどりいろのめが出たよ。

みよし・中部小学校
一年 尾藤 新



二年 伊藤ゆうり
弟といっしょに、雪だるまを作りました。黄色いバケツのぼうしがにあっています。

豊田・四郷小学校
二年 伊藤 優里

〔中学生の部〕



山ぎくら
三年 冨田 樹里

刈谷・衣浦小学校
三年 冨田 樹里



明るい声
四年 飯海 陽菜

刈谷・日高小学校
四年 飯海 陽菜



豊かな海
五年 山本 結生奈

知立・来迎寺小学校
五年 山本 結生奈

満天の星
六年 近藤 蒼

豊田・加納小学校
六年 近藤 蒼



万里一空
一年 村瀬 結香

豊田・美里中学校
一年 村瀬 結香



大器晩成
二年 伊藤 颯汰

豊田・藤岡南中学校
二年 伊藤 颯汰



不屈の精神
三年 濵野 蒼太

安城・東山中学校
三年 濵野 蒼太



表彰式の様子

講　評

「かきぞめ手本」編集委員長
豊田市立大沼小学校長　河原　佳代子

今年も、素晴らしい作品がどの学年からも出品され、難しい審査となりました。小学校1・2年生の硬筆作品では、とめ、はね、はらいなど基本的な運筆の正確さ、力のこもった字形から真剣味が伝わってきました。3年生以上の毛筆作品では、基本点画の正しさ確かさ、また高い筆力から、日頃熱心にお手本と向き合い、真摯に練習を重ねてきたことを感じました。中学生は字形の美しさだけでなく、行書らしい柔らかな線の流れや伸びやかさがある鍛錬された作品が目を引きました。一心に文字に向き合い、文字を通して自己と対話する時間が、確かな心の成長も育んでいることを実感しました。

いつの時代にあっても、人の手から生み出される文字は、雄弁に書き手の思いを語ります。心と心を結ぶ書字文化が、三河の子どもたちに深く根づき、脈々と引き継がれていることに感謝します。

令和７年度かきぞめコンクール入賞者（最優秀賞・優秀賞・佳作）一覧

	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年
最優秀賞	みよし・中部小 尾藤　新	豊田・四郷小 伊藤　優里	刈谷・衣浦小 冨田　樹里	刈谷・日高小 飯海　陽菜	知立・来迎寺小 山本結生奈	豊田・加納小 近藤　蒼	豊田・美里中 村瀬　結香	豊田・藤岡南中 伊藤　颯汰	安城・東山中 濵野　蒼太
優秀賞	刈谷・衣浦小 冨田　隼矢	豊田・寺部小 上田　奏帆	豊田・加納小 三歩一都姫	豊田・加納小 近藤　彩羽	豊田・若園小 堀端　遼人	豊田・青木小 寺地愛里紗	豊田・豊南中 高木梨緒奈	豊田・若園中 堀端　慶人	豊田・前林中 山田　晴
	西尾・矢田小 古賀　文都	西尾・寺津小 田中　結夏	西尾・平坂小 岩田　七奈	西尾・中畑小 中村　日咲	蒲郡・竹島小 白井　里依	西尾・平坂小 安部佑愛乃	西尾・平坂中 花岡姫菜子	幸田・幸田中 鳥居　和華	豊田・末野原中 渡辺　翔真
佳　作	刈谷・富士松北小 窄中　咲舞	愛教大附属岡崎小 飯沼　玲	碧南・大浜小 仲本　亘希	岡崎・竜谷小 林　千歳	碧南・西端小 八木橋柚花	刈谷・日高小 飯海　夏実	豊田・上郷中 一戸　優陽	豊田・崇化館中 永田　舟	碧南・西端中 杉浦　隆太
	刈谷・富士松北小 陣内　優成	刈谷・小垣江小 堀口　心香	豊田・寺部小 八木　花奈	西尾・花ノ木小 本多　綾乃	刈谷・住吉小 田村　美貴	豊田・中山小 伊藤　里紗	豊田・上郷中 倉橋　沙良	豊田・高橋中 川合　琴心	豊田・高橋中 加藤　彩羽
	安城・作野小 木村　祐翔	豊田・寺部小 鈴木　喜弥	豊田・市木小 安藤　光佑	西尾・平坂小 花岡　想太	豊田・寺部小 栗田　桃子	豊田・中山小 檀浦　由芽	豊田・美里中 酒井くるみ	豊田・猿投台中 寺地優里杏	豊田・竜神中 鈴木　莉乃
	豊田・根川小 塩谷　旺世	安城・桜井小 奥山　心詩	豊田・大林小 髙橋　孔明	西尾・矢田小 松野　璃子	豊田・古瀬間小 加藤　妃浬	豊田・浄水小 野田　芽生	豊田・末野原中 岡部　妃咲	豊田・逢妻中 佐藤　愛奈	豊田・美里中 村瀬　朱音
	みよし・三好丘小 鷲野　花菜	西尾・矢田小 丸林希良花	西尾・中畑小 中井　郁	西尾・吉田小 河野琥太郎	安城・丈山小 長谷川輝乃	豊田・大林小 中山　琉嘉	安城・安城北中 杉浦　絢音	安城・桜井中 伊藤　絵天	豊田・若園中 佐々木逢花
	幸田・幸田小 原田　栞里	西尾・室場小 伊藤　竜翔	みよし・緑丘小 小野　千紘	西尾・幡豆小 小嶋　悠仁	知立・来迎寺小 平澤　桃花	西尾・一色東部小 豊田　優芽	安城・東山中 佐藤　優衣	西尾・一色中 山﨑　佳南	安城・東山中 今井　花音
	蒲郡・蒲郡南部小 石部　悠翔	知立・知立小 小島　向葵	蒲郡・西浦小 牧原　伊吹	蒲郡・竹島小 酒井　朋佳	幸田・中央小 石原　巧陸	みよし・中部小 鈴木芽依奈	安城・東山中 竹内　結子	蒲郡・中部中 鈴木万莉明	みよし・三好丘中 薬師寺咲来

令和7年度

みかわ彩発見 絵画コンクール

本年度で8年目を迎えた「みかわ彩発見絵画コンクール」に、春・夏の部2067点、秋・冬の部1068点の応募がありました。本年度は、特別支援学校・学級用のテーマも加え、多くの児童からご応募をいただきました。ご協力ありがとうございました。

本年度の最優秀賞入賞者とその作品、優秀賞入賞者を紹介します。佳作・奨励賞・審査員特別賞を含めた入賞者一覧は、本法人HPに掲載しています。

作品展・表彰式の様子

入賞者一覧へ

講評

三河教育研究会造形部会長
岡崎市立竜海中学校長　安藤　眞樹

コンクールも8年目を迎え、応募された作品は、四季折々の中で子どもたちの経験したことが幅広くテーマになっていました。以前、子どもたちは、日々の生活の中で経験したことを絵日記に描いていましたが、こうした機会は段々少なくなってきています。本コンクールに応募された作品には、経験や体験の中で心が揺れ動いた様子が表情豊かに表現されています。本コンクールが、子どもたちにとって絵で表現する楽しさを感じることのできる大切な機会になっていると実感します。多くの子どもたちにもこうした経験をしてほしいと願っています。

指導いただいた先生方には、これからも子どもたちに身のまわりのできごとに目を向けさせながら、その子らしい感じ方を大切にし、表現する楽しさを実感させてほしいと思います。来年度も多くの作品に出会えることを楽しみにしています。

「学校賞」を3校に贈呈

「みかわ彩発見絵画コンクール」への取り組みが顕著な学校に対して、本法人から「学校賞」を贈呈しています。

児童数500名以上の大規模校、児童数150名以下の小規模校、その中間の中規模校に分け、それぞれの中から一校を決定します。本年度は次の3校です。

《大規模校》豊田市立挙母小学校
《中規模校》幸田町立坂崎小学校
《小規模校》愛知教育大学附属特別支援学校

右の学校には、学校賞の賞状楯と応募児童全員に参加賞の鉛筆を贈りました。



表彰式（上段：春・夏の部　下段：秋・冬の部）

最優秀賞入賞者及び作品（春・夏の部）



大好きがいっぱい！矢作川の堤防
西尾・鶴城小学校
1年　浅井　晴斗



大きい　カブトムシ　みつけた!!
岡崎・六ツ美北部小学校
2年　中村　陽希



上手にこげたよ　楽しかったカヌー体験
みよし・緑丘小学校
3年　浅野　結菜



小渡（おど）る　手作り 風鈴
豊田・寺部小学校
4年　松枝　春佳



夏の朝、見ごろをむかえた
伊賀八幡宮のハス
愛教大附属岡崎小学校
5年　平田　和楓



一心泣き相撲
岡崎・羽根小学校
6年　北澤　心桜

優秀賞入賞者（春・夏の部）

1年	2年	3年	4年	5年	6年
豊川・小坂井東小 中村　乙葉	豊田・寺部小 松枝　拓海	愛教大附属岡崎小 岩井　進次朗	愛教大附属岡崎小 貝沼　明莉	愛教大附属岡崎小 鈴木　颯煌允	安城・安城中部小 吉岡　古堵
蒲郡・形原北小 倉下　晄太朗	田原・清田小 白谷　春実	愛教大附属岡崎小 酒井　晴翔	知立・来迎寺小 田中　春耀	岡崎・井田小 眞壁　明志	西尾・一色中部小 安井　美智

最優秀賞入賞者及び作品（秋・冬の部）



ハロウィン　パーティー
刈谷・朝日小学校
1年　前田　実寿



メリー　クリスマス
刈谷・かりがね小学校
2年　前野　悠真



家族みんなで　お正月
安城・二本木小学校
3年　齊藤　柚花



ストーブと いもと ねこ
豊橋・新川小学校
4年　山本　彩瑛



初もうで ～伊賀八幡宮へ～
愛教大附属岡崎小学校
5年　板倉　裕真



家族総出の餅つき
西尾・西野町小学校
6年　坪井　　然

優秀賞入賞者（秋・冬の部）

1年	2年	3年	4年	5年	6年
愛教大附属岡崎小 早坂　萌美	岡崎・矢作南小 水越　　周	愛教大附属岡崎小 大山　絢夏	知立・来迎寺小 田中　春耀	高浜・吉浜小 中川　知咲	愛教大附属岡崎小 清水　栞那
岡崎・井田小 山田　莉瑚	安城・桜林小 包原　愛子	豊橋・松葉小 近藤　匠晟	豊橋・鷹丘小 桃野　杏理	豊橋・松葉小 近藤　愛梛	愛教大附属岡崎小 堀家　乙輝

特色ある教育活動
―「郡市教育・研究助成」を生かした取組紹介―

協働的に探究する生徒
～未来を切り拓く力を育む「朝中型探究学習」～

豊田市立朝日丘中学校長　岩月　章

本校は、豊田市の中心部に近い住宅地に立地し、豊田市博物館、豊田市美術館、豊田市民文化会館がある文化ゾーンに隣接しています。約850名の生徒が在籍し、各々が真面目で素直、協力的というよさをもっています。令和5年度に豊田市教育委員会の研究指定を受け、学区の状況や生徒の実態を踏まえた学習指導の研究に着手しました。

朝中型探究学習の四つの支援

先行きが不透明で将来の予測が困難な今、未来を切り拓く力を育むために「朝中型探究学習」を確立し、「協働的に探究する生徒」の育成に向けて本研究に取り組みました。



研究構想図

朝中型探究学習は、9教科の学習において、探究的な学習活動を取り入れるものです。探究学習の四つの支援として、①「出会い→習得→活用」の段階を明確にした単元構成、②「個の探究」と「集団の探究」の保障、③学びを整理する「振り返り」の統一、④サードプレイスの活用、があります。

サードプレイスとは、学校と家庭以外の生徒の学びの場を指します。豊田市の教育資源、地域のひと・もの・ことであるサードプレイスを積極的に授業に活用しました。特に、令和6年度に開館した豊田市博物館と連携し、社会科、理科、音楽科等での授業実践に取り組みました。

豊田市博物館との連携

博物館と連携した学習を紹介します。

社会科では、1年歴史分野で技術の進歩に焦点をあてた単元を設定し、博物館が所蔵する土器やその他の道具との出会いの場を設けました。3年公民分野では、「豊田市博物館をつかった魅力ある朝日丘のまちづくりを提案しよう。」という探究課題の解決に向け、調べ学習を進めて話し合いを行い、地元の市議会議員さんに提案を聞いていただきました。

理科では、1年地学分野で「豊田の大地に秘められた歴史を解き明かそう。」という探究課題を立て、博物館に展示してある豊田の地層に関する資料を見学するとともに、博物館学芸員に質問するなどして探究し、レポートにまとめました。完成したレポートは博物館に展示していただきました。

2年生物分野の「動物の体のつくりとはたらき」の単元では、博物館の学習室をお借りしてアユを解剖し、臓器の観察をしました。

3年生物分野では、「食物連鎖～クマタカを救えるか～」という探究課題を立て、博物館の館長さんにインタビューしたり、博物館の剥製を見たりして探究しました。

音楽科では、3年の創作活動において、「博物館をアピールできる音楽をつくって、CMミュージックをより素敵にしよう。」という探究課題を設定し、CMミュージックを作成しました。完成したCMは、実際に博物館で一般の方にも見てもらえるようにしていただきました。

成果と今後の取組

これらの実践により、生徒は実感を伴った学習を行うことができ、探究心をもって学習に向かう姿が多く見られるようになりました。また、本物にふれたり、有識者と対話したりすることで、生徒の学びが深化する様子も見られました。今後も、全教科、全教師で「朝中型探究学習」を基盤とした授業研究を進めていきたいと思います。


博物館での探究学習

研究構想図

研究紹介動画

子どもたちの心を育てる
図書館ボランティア

西尾市立八ツ面小学校
図書館ボランティア
代表　都築　小百合

八ツ面小学校の図書館ボランティアは、30年以上前に発足し、現在は、23名で活動しています。中には発足当時から活動をし、今も現役で毎週読み聞かせに来てくださっている方もみえます。

《毎月・毎週の活動》

毎月第2・4週に1回ずつ図書室の飾りつけを行っています。季節に合った掲示の中に、校長先生がこっそり隠れており、ついつい子どもたちが見つけたくなるような遊び心のある掲示を工夫しました。

また、毎週金曜日には、朝の読み聞かせを行っています。なるべくいろいろな人の読み聞かせを聞いてほしいという願いから、担当者決めも図書館ボランティアで行い、各々の持ち味を生かした読み聞かせを行っています。子どもたちも毎週の読み聞かせを楽しみにしており、読み聞かせの感想を綴る「わくわくノート」には、多くの子が心温まる感想を書いてくれます。

《特別な活動》

人権週間に合わせ、毎年1月頃に人権に関する絵本の読み聞かせを行っています。今年度も低学年、高学年にそれぞれ合う絵本を選択し、プロジェクターを用いて読み聞かせを行いました。子どもたちは読み聞かせを聞いて、人権について考え、「主人公のように優しくなりたい。」などの振り返りを書いてくれました。

また、年に2回ある読書週間では、しおり作りなどのイベントを行ったり、入学・卒業をする児童には、メンバー手作りのしおりをプレゼントしたりしています。

子どもたちがもっと本を好きになるように、もっと図書室に足を運んでくれるようにと、さまざまな方法で学校図書館を支えています。これからも、本を通して子どもたちの心を育てていきたいです。


人権読み聞かせ



図書館掲示


わくわくノート

活動紹介

愛知教育文化振興会助成事業

学校教育ボランティアグループ

蒲中生みんなが楽しめるイベントを！

蒲郡市立蒲郡中学校
キ・カ・ク　サークル
代表　岩金　美幸

蒲郡中学校（通称・蒲中）は、昭和22年に開校し、来年度、創立80周年を迎えます。卒業生は2万5千人を超え、市内はもちろん、全国各地で活躍される先輩も多くいます。

「キ・カ・ク　サークル」は、そのような本校卒業生を中心とした地域の方々と、蒲中生徒の有志が所属するボランティアサークルです。生徒は、地域の祭りや公民館等の催しにボランティアとして参加し、地域の方々は、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、生徒が楽しめる活動を計画・実行したりしています。ここでは、地域の方を講師として実施した二つの活動を紹介します。

《梅プロジェクト》

本校の中庭にある梅の木は、毎春多くの実をつけます。その実を使って、梅食品を作ろうという行事を行いました。講師は、キ・カ・クサークル所属の保護者が担います。収穫は平日の昼休みに行い、仕込み作業は土曜日に希望者が調理室に集合して実施しました。梅の実と氷砂糖を交互に瓶に仕込んで作る梅シロップ、砂糖と一緒に煮込んで作る梅ジャム、塩漬けして天日干しして作る梅干しなど、様々な梅食品作りに挑戦。約1か月後、できあがった梅シロップでジュースを作り、収穫した生徒みんなで乾杯して味わいました。


梅の収穫




梅シロップを仕込む




でき上がった梅干しと梅シロップ

《English Time》

12月、英語に慣れ親しむことを目的に「English Time」を企画しました。ゴスペルアーティストとなった本校卒業生を講師に迎え、クリスマスミニライブを開催することとしました。昼休みの体育館に集結した多くの生徒が、講師の美しい歌声と英語の発音に魅了され、素敵な時間が流れました。最後は、講師と一緒に『ノエル』を英語で大合唱し、大盛り上がりの行事となりました。


Let's sing together!

『学級活動アイデア集（中学校用）』のご紹介

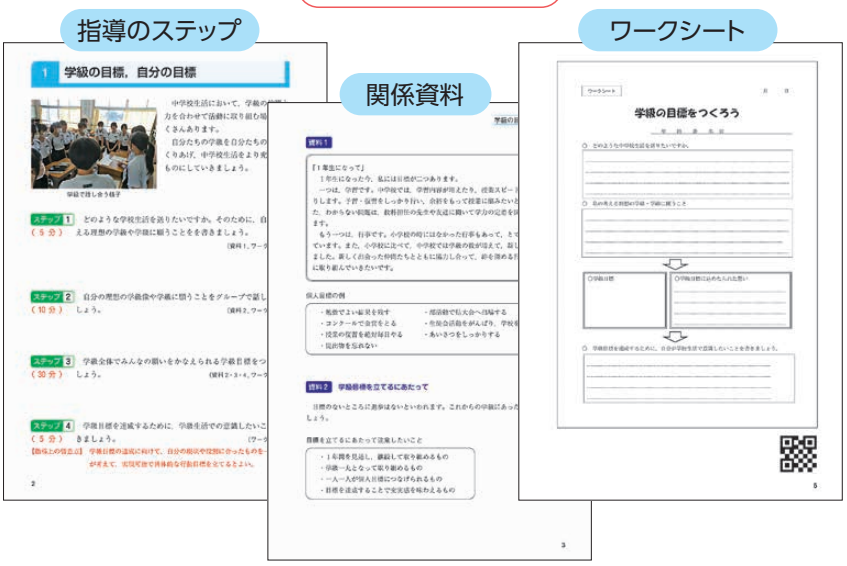
『学級活動アイデア集（中学校用）』は、これまで刊行していた『中学生の学級活動』に、廃刊となる『中学生の安全』の内容を加え、新たに教師用指導資料として編集する刊行物です。

４月１日以降、本法人ホームページからＰＤＦ版をダウンロードできますので、大いにご活用ください。また、使っていただいた感想や内容についてのご意見を、本法人ホームページの「モニターＢＯＸ」からお寄せください。来年度、いただいたご意見を参考に改善を図り、冊子として発刊する予定です。

項目の紹介

項目	学級活動・安全教育
1	学級の目標、自分の目標
2	学校の一員として、生徒会や学級の組織づくり
3	望ましい授業態度
4	学級レクリエーション
5	行事への参加（体育祭・文化祭・修学旅行等）
6	社会の一員としての自覚と責任
7	学校の活性化　～生徒会活動を盛り上げよう～
8	生活の見直し・私の長所と短所
9	将来の希望と進路の選び方　～人生設計～
10	進路の決定と卒業後の生活（3年生用）
11	1年間を振り返って（1・2年生用）
12	卒業にあたって（3年生用）
13	登下校の安全と交通マナー
14	自転車の安全な利用
15	大地震に備えよう、避難防災訓練への取り組み
16	非常時の対応、不審者対応
17	インターネットの使い方と情報モラル
付録1	朝の会、帰りの会の持ち方
付録2	「立志式」の進め方例
付録3	学期まとめ用ワークシート（3種類）

項目ごとの構成



活用の仕方

・本冊子は、教師用となります。年度初めの学級開きや学校行事に関係する学級活動等を行う際に、いつでも手に取って活用してください。
・各項目のワークシートは、学級や生徒の実態に合わせて変更できるよう、本法人のホームページからワードデータをダウンロードできるようになっています。
・各項目に掲載されたＱＲコードを読み込むと、さらに指導の参考となる情報を得ることができます。また、一部項目では、三河の優れた教師の助言も得ることができます。
・時間が十分にないときは、朝の学級活動等の短い時間でも利用することができるよう構成しています。
・本冊子は、「キャリアパスポート」の一部としても利用可能です。



申請書提出・刊行物注文締切

□個人研究助成
・（２年次・３年次）実績報告書・申請書提出／令和８年４月30日㈭
・（１年次）申請書提出／令和８年６月26日㈮

□郡市教育研究・団体研究助成・学校教育ボランティアグループ助成
申請書提出期間／令和８年５月７日㈭～15日㈮
（団体研究助成は29日㈮まで）

◇第Ⅱ期刊行物注文期間／令和８年５月８日㈮～13日㈬

会議の予定（令和8年度当初）

○第１回文振郡市正副代表者会　４月17日㈮
○第１回文振郡市事務担当者会　４月24日㈮
○第１回編集委員長・関係部会長会　６月５日㈮

文振の最新情報は、ホームページ及びメールマガジン「文振だより」をご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

教育と文化　令和8年3月1日号　No.140
発行／公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868　岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
TEL 0564-51-4819
https://www.bunsin.org

※QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。